

問1 16世紀の堺が、周囲に深い堀を築き、商人による自治を確立させた歴史的な背景として、最も適切な説明はどれか、次の中から選びなさい。（2026年 島根公立入試 類似）

1. 戦国時代の動乱の中で、大名などの外部勢力の侵入から自らの生命や財産を自衛する必要があったため。
2. 江戸幕府の鎖国政策の一環として、外国人の居住区を制限し、キリスト教の流入を監視するため。
3. 織田信長が楽市・楽座を導入し、古い特権を持つ商人を排除して新しい商業都市を建設するため。
4. 鎌倉時代以来の御家人が集まり、将軍に仕えるための政治的・軍事的な拠点を作る必要があったため。

問2 ラテンアメリカと呼ばれる地域の国々と、そこで使用されている言語の歴史的背景について説明した文として正しいものはどれですか。（2016年 和歌山公立入試 類似）

1. メキシコやペルーなどは、かつてスペインに支配された歴史があるため、主にスペイン語が使われている。
2. 南アメリカ大陸で最大の面積を持つブラジルは、スペインの支配を受けていたため、主にスペイン語が使われている。
3. 中南米の国々は、アメリカ合衆国の独立運動の影響を強く受けて発展したため、主に英語が使われている。
4. アンデス山脈周辺の国々は、古代帝国の伝統を維持するために、ヨーロッパの言語を公用語として認めていない。

問3 16世紀後半に日本を統一した人物が行った政策について、全国の田畑の広さや土地の良し悪しを調査して収穫量を「石高」で表した「太閤検地」と、農民から武器を没収した「刀狩」の共通の目的として、最も適切なものはどれですか。（2019年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 武士と農民の身分を明確に区別する「兵農分離」を進め、社会を安定させること
2. キリスト教の布教を促進し、南蛮貿易による利益を農民に分配すること
3. 戦国大名の軍勢力を強化するため、農民を徴兵して大規模な軍団を組織すること
4. 土地の所有権をすべて寺社に帰属させ、宗教の力で一揆を抑制すること

問4 16世紀のヨーロッパでは、ルターやカルヴァンらによる宗教改革が起こり、新しい教派であるプロテスタントが勢力を広げました。この動きに直面したカトリック教会が、自らの組織を立て直し、教勢を回復するために取った行動として最も適切な説明はどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

1. プロテスタントの勢力拡大に対抗し、イエズス会などの修道会を通じて海外での布教を積極的に推進した。
2. 産業革命の進展に合わせて、東インド会社と協力しながらアジアでの植民地支配を強化することに専念した。
3. ルネサンスの人間中心の考え方を取り入れ、キリスト教の布教を中止して科学技術の振興に力を入れた。
4. 十字軍の遠征が失敗したため、教皇の権威を放棄し、各国の国王が教会を直接支配する制度へと移行した。

問5 1600年に起こった、徳川家康率いる東軍と石田三成率いる西軍による戦いについて、その歴史的な意義として最も適切なものはどれか。（2017年 和歌山公立入試 類似）

1. 織田信長が武田氏の騎馬隊を破り、天下統一への道筋を固めた。
2. 徳川家康が勝利して全国支配の実権を握り、のちに江戸幕府を開くきっかけとなった。
3. 源頼朝が平氏を滅ぼし、鎌倉に幕府を開いて武家政治を確立した。
4. 豊臣秀吉が明智光秀を破り、信長の後継者としての地位を決定づけた。

問6 豊臣秀吉は、織田信長の死後に対立する有力大名を従えて全国統一を進める際、ある官職に就くことで自らの政治的支配の正当性を高めました。秀吉が就任した官職の名称と、その権威を利用した目的の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。（2024年 島根公立入試 類似）

1. 関白に就任し、天皇を補佐する立場から「惣無事令」を発令して大名間の私的な争いを禁じ、それに背く者を討伐することで統治を正当化した。
2. 征夷大將軍に就任し、武士の頂点として幕府を開くことで、鎌倉時代から続く伝統的な武家政治の仕組みを利用して諸大名を統制した。
3. 太政大臣に就任し、公家としての最高位を得ることで、全ての朝廷儀式を自らが主導し、大名たちを天皇の臣下ではなく自らの家臣として固定化した。
4. 摂政に就任し、幼い天皇に代わって政治の実権を完全に掌握することで、武力に頼らずに全ての領土を豊臣家の直轄地とする制度を整えた。

問7 豊臣秀吉が1590年に成し遂げた「全国統一」の過程における出来事として、正しい説明はどれか。（2026年 高山公立入試 類似）

1. 小田原を本拠地とする北条氏を滅ぼし、全国の諸大名を服従させた。
2. 本能寺の変で織田信長を討った明智光秀を山崎の戦いで破った。
3. 関ヶ原の戦いで西軍に勝利し、征夷大將軍となって幕府を開いた。
4. 鉄砲を組織的に利用して長篠の戦いで武田氏の軍勢を破った。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
戦国時代の動乱の中で、大名などの外部勢力の侵入から自らの生命や財産を自衛する必要があったため。
- 室町時代末期から戦国時代にかけて、中央政府の統治力が弱まると、各地で戦乱が相次ぎました。堺の商人たちは自分たちの商業活動と安全を確保するため、堀を巡らせて武装し、独自のルールで町を運営する自治組織を作り上げました。しかし、後に織田信長や豊臣秀吉といった強力な権力者に屈服し、直轄領として組み込まれることでその自治性は失われていきました。
-
- 問2** **答え 1**
メキシコやペルーなどは、かつてスペインに支配された歴史があるため、主にスペイン語が使われている。
- 中南米の多くの国々でスペイン語が話されているのは、16世紀から19世紀にかけてスペインによる植民地支配が行われたという歴史的背景があるためです。これらの地域は、スペイン語やポルトガル語といったラテン系の言語を話す人々によって支配されたことから「ラテンアメリカ」と総称されます。ブラジルについては、ポルトガルの支配下にあったため、現在もポルトガル語が使われている点に注意が必要です。
-
- 問3** **答え 1**
武士と農民の身分を明確に区別する「兵農分離」を進め、社会を安定させること
- 太閤検地によって農民の耕作権と年貢の負担義務を確定させ、同時に刀狩を行うことで農民から反乱（一揆）の手段を奪い、農業に専念させました。これにより、戦う役割の武士と、生産を担う農民の区分を明確にする「兵農分離」が確立され、近世の封建社会の基盤が整えられました。
-
- 問4** **答え 1**
プロテスタントの勢力拡大に対抗し、イエズス会などの修道会を通じて海外での布教を積極的に推進した。
- 16世紀のヨーロッパでは宗教改革によりプロテスタントが台頭し、カトリック教会の権威が揺らぎました。これに対し、カトリック教会は内部改革を行うとともに、失った勢力を海外で補おうとする「対抗宗教改革（対抗宗教自浄運動）」を展開しました。その中心となったのがイエズス会であり、彼らはアジアやアメリカ大陸への布教を強力に進めることで、キリスト教（カトリック）の拡大を図りました。
-
- 問5** **答え 2**
徳川家康が勝利して全国支配の実権を握り、のちに江戸幕府を開くきっかけとなった。
- 豊臣秀吉の死後、次期権力者の座をめぐる勢力が二分されました。この戦いで石田三成ら西軍を破った徳川家康は、圧倒的な政治的主導権を確立しました。その3年後の1603年に家康は征夷大將軍に任命され、約260年続く江戸幕府を開くこととなります。
-
- 問6** **答え 1**
関白に就任し、天皇を補佐する立場から「惣無事令」を発令して大名間の私的な争いを禁じ、それに背く者を討伐することで統治を正当化した。
- 豊臣秀吉は農民出身であったため、武家の伝統的な最高職である征夷大將軍ではなく、公家の最高職である関白に就任するという独自の道を選びました。天皇の代理人としての権威を背景に、全国の大名に対して私戦を禁じる「惣無事令（そうぶじれい）」を出し、これに従わない者を「天皇の命令に背く賊軍」として討伐することで、短期間で全国統一を成し遂げました。
-
- 問7** **答え 1**
小田原を本拠地とする北条氏を滅ぼし、全国の諸大名を服従させた。
- 豊臣秀吉は、関白として天皇の権威を利用しながら各地の大名に停戦を命じました。これに従わなかった関東の北条氏を1590年に大軍で包囲して降伏させたことで、東北地方の諸大名も秀吉に恭順し、名実ともに全国統一が完了しました。